

女性が頑張らずに自立するために

自分らしく生きるためにこんな知恵を身につけたい

女性活躍推進法(2015年成立)により、女性の活躍を推進する社会的環境や法的枠組みの整備が進む一方、女性たち自身も意欲的な生き方・働き方を求めて、日々試行錯誤を繰り返している。今回は、そんな女性たちにとって発想のヒントとなるようなお話を石川徹氏、宮子智子氏にうかがった。

「起業のヒント…キーワードに注目して世界を見渡そう」

女性ならではの視点を活かして

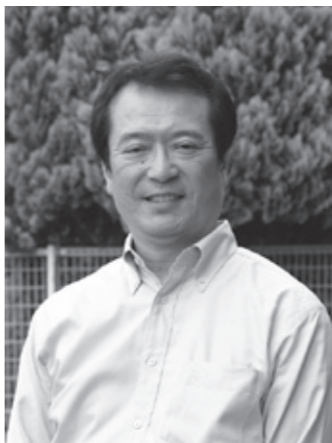
現在、社会人向けのMBA大学院で起業支援や事業支援を行っている石川徹氏(SBI大学院大学 事務局長)によれば、起業の際のキーワードは「不安」「不満」「不便」だ。

現状で満たされていないもの、環境に不足しているもの、それらを客観的に見つめてみるのが世の中の問題を解決するきっかけになる。たとえ一人ひとりが抱える個人的な問題でも、

大勢が悩んでいるものとして広く共有されれば、それはビジネスチャンスにつながるというのだ。

例えば、女性の側から見て「不満」だ「不便だ」と感じているものは少なくないが、仕方なく我慢を続けていると、いつしか自然体で生きるのが辛くなり、本来の生き方が損なわれてしまう。なぜ不満なのか、なぜ不便なのか、「不」に注目して分析してみることで、その不満や不便を解消して世の中を大きく変えられる可能性が出てくる。

2つ目は「ニーズ、つまり、コン



Profile
石川 徹 (TORU ISHIKAWA)
SBI大学院大学 事務局長

保険会社ファンドマネージャー、ベンチャーキャピタリストを経て現在社会人向けMBA大学院の運営を通じて事業支援を行っています。ひとりひとりの身近なヒントが、周囲に影響を与え、会社が、地域が、世の中が変わる、そして自分も変わる。そんな学びを体験していただきたいと思っています。

ピュータによる情報伝達だ。
主要国のこの20年間のGDP(国内総生産)成長率を見てみると、アメリカ、中国はじめ、ドイツ、韓国など、いずれもプラスの成長が認められるが、日本はマイナス成長だ。GDP

そ高いものの日本の成長は止まっていると言えよう。この原因は何なのか。石川氏によれば、成長している国々では産業におけるIT利用が大いに盛んであるが、日本では大幅に遅れているせいではないかという。20年

「自分なりの自立を定義しよう」

あなたにとっての自立とは？

続いては、中小企業の成長に関わりながら職場環境創りを支援している、宮子智子氏(株式会社LM&C代表取締役)にうかがおう。

知識や知恵が思い通りに使えれば、事柄を判断したり、必要なものを選択したりしやすい。つまり、事態を動かしやすいことになるわけだ。

2つ目は、心の自立だ。

ひと口に女性の自立と言っても、漠然としすぎている。他に依存せず「一本立ちする」ということを意味するのだが、普段「自立」と聞くと、具体的にどのようなイメージを抱くだろうか。宮子氏は、まず、「あなたの考え」ている自立って何?と問いかける。

「自立はタイハン」と思えばかりではなかなか実現できないが、その気持を自分でコントロールできるようにすること。それは、一歩下がって自己を客観的に見ることもあろう。そうすると、自分が置かれた状況に感謝することの大切さに気づくものだ。そうなるよ、笑顔が自然に出てくるようになるという。

3つ目は、お金の自立。

お金があればあるほどいい、と思っている人も多いかもしれないが、

「不」を解決するカギはダイバーシティにある



果、イスラム教徒向けの食材、ハラール※の市場は一大ビジネスチャンスとなったわけである。

また、世界人口の半数は女性であることに注目すれば、女性用品というのは35億人の市場を持つ桁外れの領域と考えられる。これもまた途方もないビジネスにつながることに。

以上のように、これから女性が自立し、活躍の場を探そうとするなら、「不」を駆使しながら、「目下の不」を解決すべく、「ダイバーシティ」の視点に立つことが大切だと言えよう。従来のステレオタイプの発想にこだわらない、女性ならではの柔軟な感性や目線こそが豊かな社会を創るのに必要であると、世界も気づき始めたのではないだろうか。



Profile
宮子智子 (TOMOKO MIYAKO)
株式会社LM&C 代表取締役

就職後半年で会社を辞め、インテリアコーディネーターとして起業、リフォーム会社の代表を経て、平成9年に社会保険労務士事務所、平成19年にコンサルティング会社、平成28年に一般社団法人、その間NPO法人や協同組合などを立ち上げ、いろんな形で仕事をしてきました。仕事は一貫して中小企業の成長に関わり「夢を叶える職場を当たり前にする」環境創りをお手伝いしています。

※イスラム法で食べることが許されている食材や料理。ハラールともいう。アラビア語。



実際には、「自立するのにお金はなくてもいいんです」と宮子氏はきっぱり。ただ、自分でコントロールできるお金があれば、お金で悩むことがないというだけのこと。

実際、どんなにお金があっても仕事をしていない人は、自立しているとは言えないし、仕事はしていても、人に依存しているなら、自立しているとは言えない。実際、お金—経済の問題は微妙な場合も少なくないが、要は、お金の困られないということなのだろう。

以上の3つの観点から改めて自分の自立を考えてみよう。自分が目指す自立の形をイメージしてみても、説得力ある言葉でそれを表現してみよ

う。まずは、それがスタートだ。

自分の価値観を知って 仕事の方向を探ろう

さて、次に、宮子氏が重視するのは自分の価値観をしつかり知ることだ。下の図表は、さまざま価値観をタイプ別に並べたものだが、あなたの価値観を探るために、まずは、このなかから興味・関心を引かれる言葉を9つ選んで○をつけてみてほしい。深く考えずに、直感的に選んだほうが本音の結果が得られる。

それぞれの列のタイプは、以下の通りだ。Aはアクティブタイプ、Bはマナータイプ、Cはサービスタップ、Dはイノベータータイプ。あなたがつけた○の数が一番多い列が、あなたの価値観に最も近いということになる。

では、自分の価値観のタイプを見極めると、自立する上でどんなよいことがあるのだろうか。

まず、自分の好きなことが確かめられるし、どんな働き方が向いているかに気がつく。

例えば、アクティブタイプは行動的で、新しいことにもどんどんチャレンジしていきける。マナータイプは、

A	B	C	D
・自由	・安定	・人間関係	・学習
・柔軟性	・構造	・自分らしさ	・知能
・即行	・システム	・自己成長	・ロジック・理論
・行動力	・計画	・有位性	・自己制御
・楽天性	・プロセス	・チームワーク	・テクノロジー
・興奮	・予測	・関与	・リサーチ
・注目	・責任	・コミュニティ	・科学
・刺激	・義務	・チャリティ	・普遍的真理
・競争	・ルール	・論理	・専門性
・勝利	・証明	・ハーモニー	・能力・技量
・遊戯	・タイトル	・モラル	・正確
・想像	・伝統	・貢献	・大局

比較検討して、何が最良かを選ぶのが得意だ。サービスタップは、とにかくお金よりやり甲斐が大事で、人と関わる仕事をしたがる。学者肌のイノベータータイプは、状況を見極めながら少しずつ投資をするなど客観的な取り組みが向いている。

自分がどんな点に価値を置き、どんな働き方なら実行できるのかを知れば、自分がやりたいこと、できることにフォーカスできる。好きなことなら、たとえ難しくともストレスはたまらない。得意なことなら、スキルアップも苦にならないはずだ。つまり、自分に向いていることなら、必要以上に頑張らなくても大丈夫と

うことになる。

最後に、宮子氏提唱の「頑張らないコツ」をもう少しかがおつ。

取捨選択したり優先順位を決めたりすることは、いつでも難しいが、常に一番いいものを意識して見ていると、それ以下のものの判断がつくようになるという。美味しいものを食べていけば、マズイものも分かるようになるというのだ。

同時に、気をつけたいことは、全てを自分に課さないこと。自分の知っていることに集中し、知らないことは、それを知っている人に託せばよい。自分の知らないことを知っている人たちのネットワークを持つことが賢いやり方と言えよう。

そして、アウトプットを心がけること。情報や知識のインプットだけでなく、それを人に伝えるなどして外に出すことで自分の中への定着を図り、忘却を食い止める。

自分らしく生きて自分らしく自立するための頑張らないコツの数々。これらのコツを身につけて、皆さんも自分の目的地を決めて、そこへ向かう道を探り、しなやかに歩んでください。